正二位勲一等侯爵西園寺公望

任内閣總理大臣

内閣總理大臣兼文部大臣伯爵桂太郎

依願免本官並兼官

右

勅旨ヲ奉シ謹テ奏ス

ルヲ得タリ東洋ニ於ケル我邦ノ地位ヲ確立シ平和克

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

明治三十九年一月七日

陸軍大臣寺内正毅

臣

曩ニ病餘菲才ヲ以テ敢テ自ラ揆ラス内閣首班ノ重責ヲ奉セリ爾来孜々駑鈍ヲ盡シ以テ　皇恩ノ萬一ニ荅ヘ奉ラムコトヲ期ス明治三十六年臣當時ノ政情ニ察シ負荷ノ任ニ耐ヘサルモノアリ加フルニ心身亦静養ヲ要スルノ故ヲ以テ上表骸骨ヲ乞ヘルモ時適々日露交渉ノ端ヲ開カムトスルニ當リ更ニ　聖旨ヲ奉シテ留職其事ニ任ス而テ交渉効ナク交戦二十閲月幸ニ　陛下ノ御稜威ニ由リ當初ノ目的ヲ達シ平和ノ克復ヲ見ルヲ得タリ國威茲ニ揚リ國勢茲ニ張ル臣此盛時ニ方リ敢テ補弼ノ員ニ備ハル　聖恩ノ厚何物カ之ニ加ヘム顧フニ日英協約ノ更締已ニ成ヲ告ケ今亦日韓協約ト日清約定トノ

完結セルアリ而テ戦後経営ニ属スル財政案亦畧其措畫ヲ
アスルヲ得タリ東洋ニ於ケル我邦ノ地位ヲ確立シ平和克
復ニ隨伴シテ處理スヘキ要務ハ是ヲ以テ一段落ヲ畫スル
ニ至レリ今後ノ事タル實ニ現下ノ形勢ニ基キ擧國一致
益々國運ノ發展大成ヲ期スルニ在リ其業決シテ容易
ニアラス臣曩ニ命ヲ奉シテ日露和約ノ局ヲ收ムルヤ當時
國民敵愾ノ心尚盛ニシテ全局ノ利害ニ通曉スル者寡ナク
為メニ世論ノ喧囂ヲ致セリ是レ固ヨリ一時ノ現象タルニ
過キスト雖政局ノ轉進發達ヲ期スルニ當リテハ機微ノ間
民心ヲ善導シ轉回スルノ最モ緊要ナルモノアルヲ信ス今ヤ
平和克復ノ新時期ヲ畫シ今後経営ノ任務重且大ナルニ
方リ臣ノ健康益々不良ヲ加フルヲ以テシテ依然補弼ノ
任ニ在ルハ獨リ時局ノ推移ニ利スル所ナキノミナラス會々
寵恩ニ背キ　聖德ヲ汚スニ至ラムコトヲ憂ヘ夙夜
惶懼措ク能ハサル所ナリ希クハ　聖明至仁特ニ　聖鑑ヲ
垂レ臣ノ現職ヲ解キ臣ニ許スニ靜養ノ時ヲ以テシ報効
ヲ他日ニ期スルヲ得セシメ賜ハムコトヲ　誠惶誠恐頓首

明治三十八年十二月

内閣總理大臣兼外務大臣文部大臣侯爵桂太郎

任外務大臣　正四位勲一等加藤高明

任内務大臣　正四位勲三等原　敬

任大蔵大臣　大蔵次官兼臨時國債整理局長従四位勲二等法學博士阪谷芳郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/